

## 病院の理念

- 1.医療活動を通じ、健やかなまちづくりに貢献
- 2.地域連携の積極推進により、利用者にとって最良の医療を実践
- 3.つねに病院運営の刷新を図り、「愛され、信頼される病院」を実現

岐北厚生病院 広報誌 2010. 8.1発行

2010 夏号 Vol.45

45号目次

- あー頭が痛いなあと思ったら
- 心臓超音波装置 Vivid E9
- 部署紹介「医事課」
- 球技大会
- 外来診療担当表
- その他

## 青空

内科医師  
渡部直樹あー頭が痛いなあ  
と思ったら

と思ったら

昨年十二月より内科勤務となりました渡部（わたなべ）です。

日常生活であたまで痛くなることはよくあると思います。「頭痛なんてしたこと無し」といわれる方もいますが、日常的に痛みを感じる方も多くいます。

頭痛の原因は多様で、痛みの強さが必ずしも重篤さを表すとは限りません。頭が痛くなったときに一番心配なことは「頭の血管が切れたのではないだろうか」、「できものが頭の中に無いだろうか」と言われることです。くも膜下出血、脳腫瘍などの病気が「急に頭痛が始まった」「いつもの頭痛と違う」などといった時には疑う必要があります。くも膜下出血は、年間人口一万人あたり二人の割合で発生（山梨市の人口は約三万人）し、女性に多い病気です。発症すると突然死の原因になり、死亡や何らかの後遺症を残すことが多いです。ほとんどの場合に脳動脈瘤の破裂によって引き起こされ、出血が軽度の場合は頭痛をおこします。発症時に何をしていたかをしっかりと伝えるべし（何分何秒まで！）突然の痛みの場合があり、多くは救急車を呼ぶこととなります。ただ、中には症状が軽く、CTや他の検査をしてわかることもあります。ただちに手術が必要な場合には岐阜大学病院脳外科など手術のできる病院へ救急車で移動して

いただくこともあります。

内科外来を頭痛で受診される患者さんのうち、半分以上は良性の頭痛（片頭痛、肩こりが原因の頭痛など）といわれ、痛み止めで様子を見ましようと言われるものです。薬を使わずに症状を軽くするためには、次のような誘因となるものを避けましょう。アルコール、刺激の強い食事（コーヒー、チョコレート、チーズなど）、不眠、たばこ、ストレス、ぎらぎらした光などは原因の可能性があります。暗くて静かな場所で休むのもよいでしょう。

また、痛み止めを常用している場合、例えば、一週間で四日以上鎮痛薬を飲むような場合には、痛み止めの副作用で頭痛が起こっている場合があります。飲むのをやめることで、症状が軽くなることもありますので、違う鎮痛薬を処方してもらうことも必要かもしれません。その場合にも受診した時に相談してみてください。



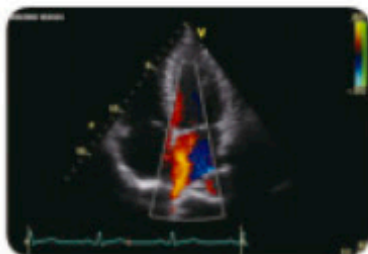
## 心臓超音波装置 Vivid E9

当院では2010年4月から最新の心臓専用超音波装置 Vivid E9を導入致しました。そこで今回この装置と心臓超音波（心エコー）検査について紹介いたします。

心エコー検査とは人の耳には聞こえない“音”を心臓に向けて発し、はね返ってきた信号を集めて画像にしたものです。超音波は高周波の“音”ですが人体に影響はありません。

目的は、心臓は全身に血液をおくるポンプのようなもので、そのポンプとしての動き具合や心臓の壁の厚さを評価したりするための検査です。またこのポンプには逆方向に血液が流れるのを防ぐための“弁”というのが4つありますが、その弁の閉まり具合や開き具合の観察をしたり、その他心臓の中に血液の塊がないかの確認にも使います。手術を行うための検査の一つとして行うこともあります。

検査の方法は手首、足首、胸をひらいてベッドに左を下に向けて寝ていただき、手首、足首に心電図の電極をつけさせていただきます。あとは臨床検査技師（または診療放射線技師）がプローブという超音波を発する道具を胸にあてるだけです。この時、超音波の通りをよくするためゼリーをぬりますが体の害になるようなものではありません。また、いろいろな方向から心臓を診ますのでプローブを当てる範囲も広く、大きさを測ったりします。時間は20分～30分程度かかります。（検査目的によってはもっと時間がかかる場合もあります。）



カラードップラー画像

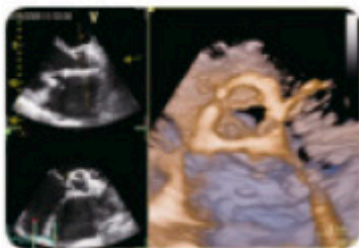


Bモード画像

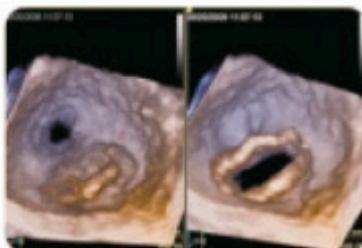
この検査を行うことで、心筋梗塞、心臓弁膜症、心筋症、心筋炎等々な心疾患を評価する一助となります。ただしあくまで他の検査結果と総合して判断したり前回の検査結果と比較したりしますので詳細は主治医にお尋ねください。

ところで、Vivid E9 の最大の特長を御紹介いたします。Vivid E9は、世界で初めて1心拍で心臓全体のデータ収集・リアルタイムの3D画像の表示ができるようになりました。食生活の欧米化や運動不足などによる肥満人口の増加、ならびに高齢化の進展などに伴う心疾患患者の増加を受けて、近年心臓用超音波診断装置に対するニーズが急速に伸びています。ニーズ拡大に伴い、装置の技術も飛躍的に進歩し、従来の超音波装置では、連続する複数心拍のデータから合成して画像を再構築していたため、不整脈の患者さまなどはきれいな画像を得られなかったり、画像を構築するのに時間がかかったりしていましたが、1心拍をリアルタイムで3D画像が得られることにより日常検査でも3Dを活用することができるようになりました。3D画像により心臓の内部構造を立体的に見ることができ、弁膜症評価や形態評価、左心室の内腔の容積やその変化率を計測表示することも可能になりました。もちろん、2Dの画像も飛躍的によくなり診断の向上につながっています。

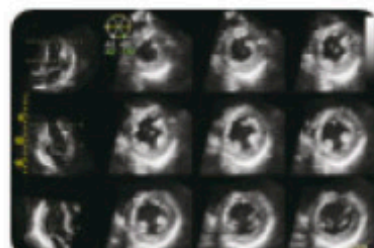
今回この装置を導入したことにより、よりよい診療に役立たせていきたいと思っております。



3D画像 1



3D画像 2



3D画像 3

## 部署 紹介

## 医 事 課

病院を訪れる方には様々な方がいらっしゃいますが、大半の方が最初に総合受付にいらっしゃいます。その窓口で最初に接するのも私たち「医事課」の職員です。

医事課は医療に関する事務を行っており、受付、カルテ作成や管理、会計、保険請求、関連施設との連携、オーダーリングシステムや医事電算システムの管理運営など、そのどれもが円滑な診療を提供するための大切な業務となっています。

病院の中にあっては、診療の補助的な役割を果たしながら、診療にかかわる全ての知識を総合し病院活動を円滑にすすめるための潤滑油的な存在として、現在、課長以下16名の職員と委託職員が様々な仕事を分担しています。

医事課の職員は、病院を訪れた方に最初に接する職員ですから病院の顔とも言えます。対応ひとつで病院に対するイメージが決まってしまうので、常に懇切丁寧な対応を心がけています。

また、不安を抱いて来院される患者様とそのご家族が少しでも心を楽にし、柔らかな表情になってくれるよう、ホッとできる心配りにつとめています。



## 球技大会

### 野球部

「宣誓 我々選手一同は……平成22年5月22日  
選手代表 岐北厚生病院……」

今年は選手宣誓から、厚生連親善球技大会がはじまりました。昨年準優勝と悔しい思いをし、今年こそは優勝するとメンバー全員心に誓い、楽しく勝つをモットーに練習に励みました。初戦は、難なく勝利をおさめ、準決勝、昨年優勝チームとの対戦。3-4と今年も惜敗しました。来年こそは優勝を……。

野球部 主将 平松達



### バレー部

今年はバレー部に新しいメンバーが増え、フレッシュな空気が流れ込みました。また、負傷中のベテラン選手は練習の指導や手伝いをし、私たちをサポートしてくれました。限られた少ない練習時間ではありましたが、チーム一丸となり今回の大会に挑むことが出来ました。しかし、結果は4位と言うことで、メンバー全員が非常に悔しい思いをしました。今後も明るい雰囲気はそのままに、1つのボールをみんなであつなげられるよう練習に励みたいと思います。

